

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

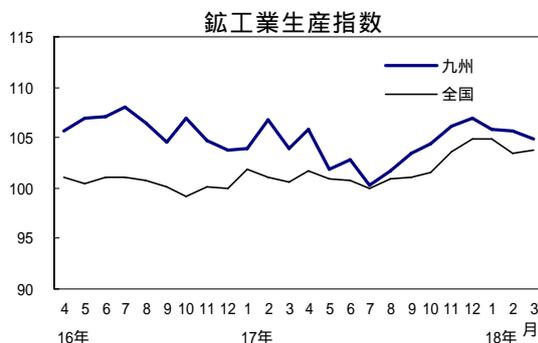
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 2 月）	今回（平成 18 年 5 月）	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、車載向けや薄型テレビ向けの高付加価値 L S I、デジタルカメラ向けの C C D、ゲーム機向けの I C 等が好調なことから、引き続き増加している。輸送機械は、自動車は、アメリカやアジア、中東向けの輸出は好調なもの、国内向け完成車の一部がやや伸び悩んでいることから減少した。一般機械は、半導体製造装置は輸出の好調さから、液晶製造関連製品は国内外での薄型パネル増産を背景にいずれも増加している。食料品・たばこは、増税前の需要増から第 3 のビールは好調だったものの、発泡酒、肉製品等が低下したことから減少した。化学は、3月に大規模な定期修理の影響があったが、全体としてはナイロンの原料であるカプロラクタムやポリエステル原料となるポリプロピレン等が好調だったことから横ばいとなった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	14.9	6.1	5.7	5.1	45.5
輸送機械	11.7	6.2	1.5	1.5	371.9
一般機械	11.0	14.5	1.3	0.5	1.7
食料品・たばこ	10.8	0.5	2.8	1.2	5.9
化学	8.5	2.5	0.0	4.0	4.3
鉱工業	100.0	3.9	0.3	1.2	11.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2. 1~3 月期は速報値。

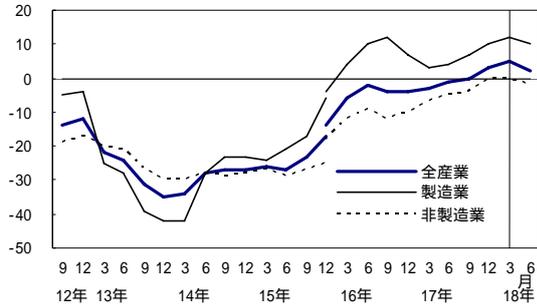
(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。

2. 平成 18 年 3 月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

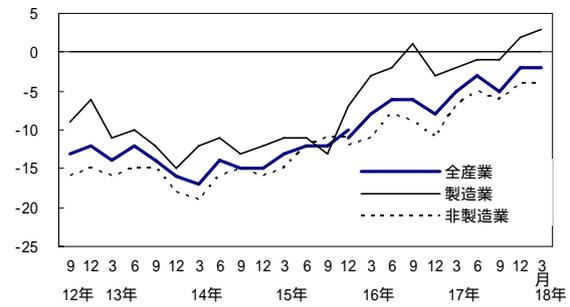
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



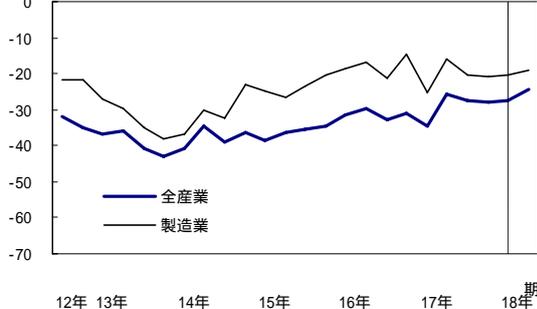
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「3月度の決算が4月から上がってきているが、押しなべて昨年よりも数字的には好調である。関係先の表情もおおむね明るい(経営コンサルタント)」など、「良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「銀行の貸出の状況についても前月と大きく変わったところもなく、新規需要がない。しかしながら、個人向けに対しては、長期金利の上昇傾向もあり、多少問い合わせ等が多くなっている(金融業)」など「変わらない」とする回答もみられた。

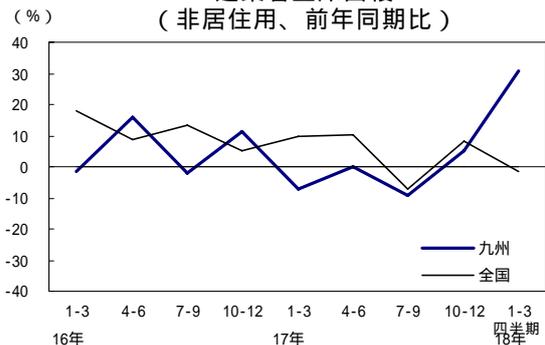
(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績見込み	18年度計画
全産業	7.1(0.2)	4.2
製造業	16.5(2.3)	13.4
非製造業	1.1(2.1)	2.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

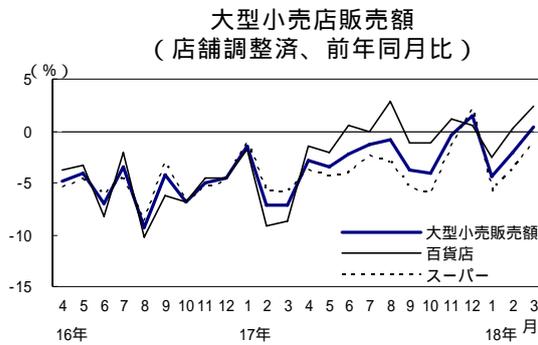
(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りが好調で、飲食料品の動きは良かったものの、冬物衣料品が前月の寒波による需要の前倒しや、一部で商材不足となったことなどから動きが鈍く、前年を下回った。2月は、飲食料品は前年を下回ったものの、気温が高めに推移したことからスプリングコート等の婦人春物衣料が好調だったことや、高級バックやアクセサリ等の身の回り品のほか、化粧品、時計、メガネ等の動きが良かったことなどから前年を上回った。3月は、飲食料品が前年を下回ったものの、紳士、婦人とも春物や初夏物の衣料の動きが好調だったことや、美術工芸品や家具に動きがみられたことなどから、全体としては前年を上回った。九州百貨店協会によると、九州地区の4月の売上高は、前年同月比で2.4%減となっている。スーパーは、春物衣料や薄型テレビ等家電製品の一部に好調な動きがみられたものの、冬物衣料品や主力の飲食料品の動きが総じて鈍かったことから全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「初夏物の動きが低調であった。来客数は増加の傾向にあるが、消費の二極化(質×価格)もあり、質は大都市圏へ、価格は最寄スーパーへと地方百貨店のあり方が問われている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



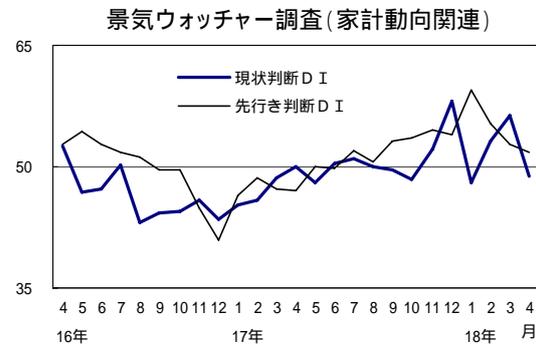
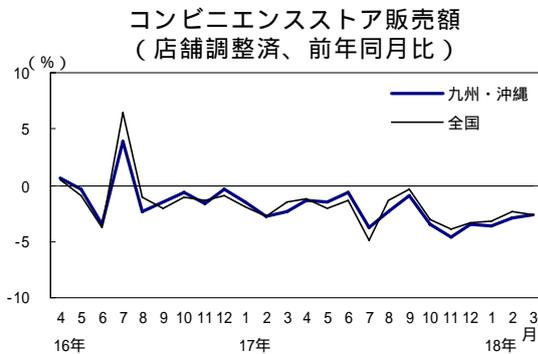
(前年同月比、%)

	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	2.9	1.9	0.7	2.1
百貨店	1.0	0.4	0.2	0.0
スーパー	4.1	3.5	1.5	3.7
コンビニ	1.2	2.4	3.9	3.1
景気ウォッチャー	49.5	50.2	52.9	52.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

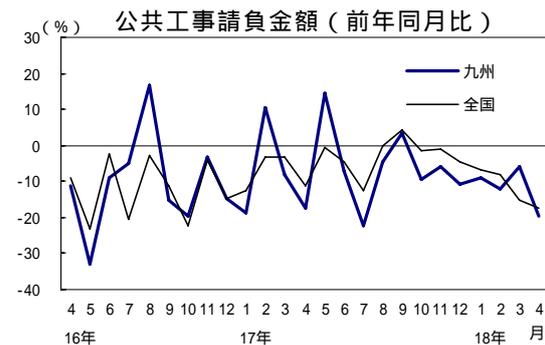
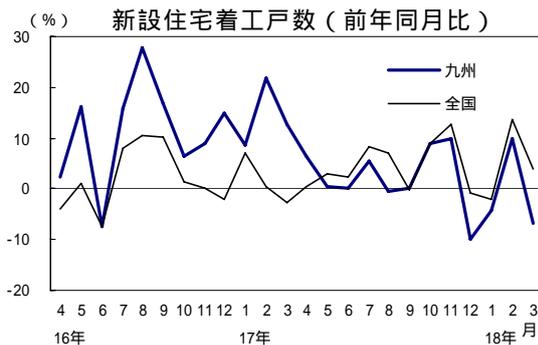
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲、持家が前年を上回ったものの、貸家、給与が下回ったことから全体では減少している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

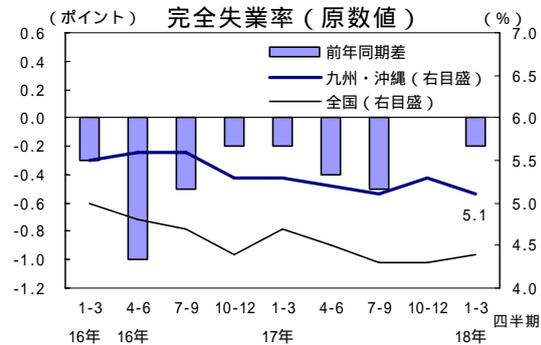
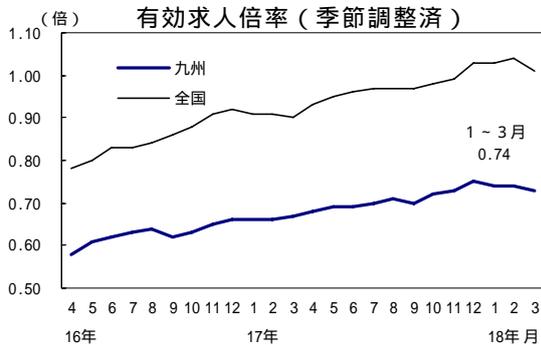


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

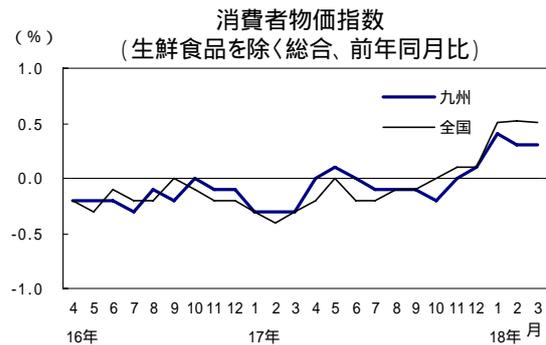
「昨年の下期から大きく伸長している。最近は仕事よりスタッフの確保が難しく、応募が少なくなっている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	315	270	237	259	82
(前年比)	9.8	4.6	20.7	5.8	9.9
負債総額	1845	1148	825	1259	248
(前年比)	72.4	25.4	21.4	44.3	47.3



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・全体的に売上も伸びており、今までになく良く動いている。また、会社関係、特に夜の接待も多くなっている(タクシー運転手)

<先行き>

・原油価格の高騰が、ガソリン価格や電気・ガス代等に影響を与え、富裕層を除く個人の消費意欲を減退させている(百貨店)

景気ウォッチャー調査(合計)

